

愛知教育大学大学院 教育実践研究科（教職大学院）

第6回フォローアップ研修会のまとめ

期 日：2017年11月12日（日）

場 所：愛知教育大学 教育未来館 2A 講義室・多目的指導室

研修内容：13：30 開会あいさつ

13：35 実践発表

○新城市立新城小学校 松井 優也さん（基礎領域7期生）
「教職大学院の研究と現状」

○みよし市教育委員会 山田 郁子さん（応用領域6期生）
「教職大学院を卒業して」

14：45 グループ交流会

16：00 講評と話題提供 佐藤 洋一 教授

「今、教職大学院修了生の皆様に伝えたいこと 一私の教員生活を振り返りながら」

16：30 意見交換・相談会

17：00 終了

第6回フォローアップ研修会は、愛知教育大学教育未来館の2A 講義室および多目的指導室において開催されました。研修会には、修了生22名（うち基礎領域修了生14名、応用領域修了生8名）、教員20名（退職教員4名を含む）の計42名が参加しました。

教職実践専攻代表の倉本哲男教授による開会あいさつの後、実践発表が行われました。実践発表では、修了生を代表して、基礎領域7期生の松井優也さんと応用領域6期生の山田郁子さんが、修了後に力を入れて取り組んでいる教育実践や仕事、教職大学院で学んだことの意味、修了生に伝えたいことなどについて発表しました。自ら研究実践に取り組む主体的な姿や、子どもの笑顔こそが教員の存在根拠であり、笑顔を引き出すための視野の広さを得るためにこそ教職大学院の学びがあるという問題提起に、参加者は大いに刺激を受けていました。

その後、グループ交流会を行い、実践発表を踏まえながら、修了後にどのような実践に取り組んでいるか、教職大学院での学びをどのように活かそうとしているか、修了後にぶつかった課題にどのように向き合っているかなどについて、意見交流が行われました。その後、グループ交流の結果を全体で共有しました。グループ発表全体としては、子どもの成長に教師としての成長を重ね合わせている姿、教職大学院での学びを踏まえて理論を実践的にかみ砕きながら仕事をしている姿、実践発表に明日からの仕事への意欲を見出している姿、教職員の同僚性の大切さを再認識している姿、教師としての軸を持つことへの気づきなどが印象的でした。

研修会の後半は、佐藤洋一教授（教職大学院・授業づくり）に前半の実践発表・グループ交流会についてコメントいただくとともに、「今、教職大学院修了生の皆様に伝えたいこと 一私の教員生活を振り返りながら」について話題提供していただきました。そこでは、ご自身の教員生活から学んだことや今日の教育動向などを踏まえながら、人生における正と負の経験を胸に刻みつつ実践と研究を進めることの大切さ、助けを求めながらもよいから現実から逃げないこと、教育では究極のところ人と人との人間的なふれ合いが大事であることなどが提起されました。

今回の研修会が、修了生の皆さんにとって、明日からの仕事を励ますとともに、教育者としての生き方を見つめ直す場になることを、願わずにはられません。



【 図：グループ交流会の様子 】

H29年度 修了生フォローアップ研修会 アンケートまとめ（全体）

① 修了生の実践発表の感想等

- ・山田先生の「子どもの味方です」「子どもを主語に考えているか」が印象に残りました。松井先生からはすすんで実践を重ねる姿に刺激をいただきました。明日から子どもにまた会う中で、強く意識していきたいとあらためて思いました。
- ・教職大学院での学びや経験が糧となり、それぞれの場所でご活躍されている様子が印象に残りました。自分ももう少し自身をもって現場で貢献できるよう努力したいと思います。
- ・教育委員会について、また、その立場から見た教育現場の現状、課題。
- ・貴重な機会をいただきありがとうございました。今の自分を振り返ることができました。
- ・日々忙しい中、「子どものために」を常に考え、指導をし、ふり返り、技術を高めていくことの大切さを感じた。
- ・松井先生はフレッシュで熱意に満ちあふれているのが印象的でした。修了直後の自分の姿と重なり、自分を省みる良い機会でした。山田先生の発表からは教育委員会の実情や魅力ある教師について大変参考になりました。
- ・修了後も学びを生かして学校現場で継続して実践しているところがとても刺激を受けました。「明日、会いたい先生になるには」。この考えを学校全体で共有したら、不登校の子は少なくなる。現場で伝えていきたいです。
- ・このような機会を与您いただきありがとうございます。自分の実践をふりかえる機会となりました。参加者が多ければ、分科会に分けていろんな実践を聞く機会にしてほしい。
- ・自分も頑張ろうと思えるお話でした。
- ・あらためて大学院で学んでいる（た）先生たちの意識は高い。向学心。現場に立って授業づくり、学級づくりをしていく、その幸せを感じました。
- ・今の立場でモチベーションを高めていくこと。自分の考えを出力、アウトプットすること。
- ・松井先生の発表を聞いて、自分が、教職大学院でやってきたことを思い出しながら、現在の意識の薄れを感じました。もう一度、学んだことを生かしていきたいと思いました。
- ・身近な先輩の発表を聞いて、私も研究を進めていきたいと思った。
- ・松井さんの発表からは、若手の頑張りが伝わってきました。山田先生のお話からは、教育委員会のことが知れました。思っていた以上に大変そうです。外から見た学校の印象を山田先生の視点で語られたことが魅力的でした。
- ・忙しいにもかかわらず、研究をして、子どものためにがんばっていらっしゃるってすごいなと思いました。
- ・保護者、地域からの電話、意見は「期待があるから」であることを聞いて、プラスに受けとめていきたいと思った。
- ・“明日会いたい先生”というフレーズがすごく心に入ってきた。今まで以上にひとりひとりの生徒とかかわり、先生に会いたいから頑張ろうと思えるような存在になりたいと改めて思った。
- ・基礎学生と応用学生の方からの発表は、違った視点、内容でとても勉強になりましたし、特に山田先生の市教委という行政の内容は未知な領域だったこともあり、参加できて本当に良かったです。
- ・研究や学びを現場でどう生かしているか。現場を離れて出てきた言葉、感銘を受けました。

② グループ交流会の感想等

- ・自分の軸がキーワード、大学院での学び、自分が発する言葉をどれだけ納得してもらえるか、これまでの学び、今の積み重ねが大切。まず自分に与えられた役割を一つ一ついねいに果たすことを続けていきたいと思いました。
- ・教職大学院で学んできた仲間が、それぞれの思いをもって現場でがんばって見える姿に励まされました。また先生方から、子どものやる気を引き出すポイント等について助言をいただき、勉強になりました。

- ・教員間の連携についての課題。
- ・今、現在悩んでいることを年が近い教員と話し合いができたので、年のはなれた教員もおり、いろいろな意見がでてよかったです。
- ・大学院での学びを思い出すことができました。
- ・いろんな立場の方と交流をすることができて、現状の課題を共有することができた。
- ・出力することで学びになる。教職大学院の独自性。
- ・修了生の方々のお話が聞けてよかったです。
- ・現場でそれぞれ学んだ理論をもとに実践をしていっしょのことを知り、刺激を受けました。
- ・自分の軸、自分が自信があることをもっていることが大切。実践で語り若手を支援していく。説得力のある助言ができるように。
- ・SOSを言える人、困ったことを具体的に言うことの大切さ。
- ・悩みを共有できて楽になった。
- ・子どもたちとの関わり方について話し合った。AさんとBさんの悩みや困り感などを中心に話す中で、やはりチームとしての対応が大切であることに気づいた。
- ・子どものために頑張ることが大事だと再確認しました。
- ・学年に所属していない（専科）と担任との連携の難しさ。子どもの成長をより高めていくためには、協力し合わない。
- ・私の悩みに対して「ヤケドする子もいる！！ということに気づけば、熱いことの価値や本質が見えてくる」というお言葉をいただいて、自分の悩みが、必要なことだと思え、がんばろうと思えた。
- ・応用学生の先輩2人（C先生、D先生）のお話から、修了後が大切であることを改めて実践できました。とても勉強になりました。
- ・“大学院の学びは不偏的なものを学ぶもの”。5～10年後に学ぶことができた。

③ 教職大学院教員の講評・話題提供の感想等

- ・“学ぶ楽しさと方法を教え、生きる勇気と誇りを考える”，印象に残りました。修了後、職場も変わり、思うように行かないこと、失敗のくり返しですが、今日のお話を聞き、それも財産、胸に刻んで明日からまた子どもと一対一で向き合いたいです。
- ・子どものために常に学び続けることが大切だと感じました。
- ・自身の歯がゆい経験を混ぜながら私たちに熱意をもって伝えられていて嬉しく思う。
- ・新しい情報をたえず入れていかなければいけないと身がひきしまりました。
- ・佐藤先生の若かりし頃のお話が聞けて良かったです。
- ・「逃げない」「失敗を胸に刻む」、人間性、教師にとって忘れてはいけないこと。今後の教員人生にぜひ生かしていきたいです。また同僚にもこのことを伝えていきたいです。
- ・恥や失敗を覚えておく。このことが自分が変わっていく原点になるということを知った。前年度のふりかえりをしたい。
- ・流れるようなお話、授業を思い出します。さまざまなキーワードのご提示、胸にきざんで教師として努力を続けたいと思います。
- ・弱い自分も自分として受け入れながら、常に問い続けることの大切さを学んだ。子どもが見えなくならないように、自分の人間性をみがきつづけることを念頭に今後の人生を歩んでいきたい。
- ・私も与えられたカードの中で、逃げないでがんばろうと思いました。
- ・価値観を自分でつくっていきたいと思った。
- ・佐藤先生の持論をふまえられた佐藤節を久しぶりにお聞きし、教員としての在り方や考え方を改めて考える機会をいただけたと思います。
- ・佐藤先生が若いころにたくさん失敗をされているのがびっくりしましたし、私もたくさん失敗しようと思いました。

- ・「プロ」と呼ばれる人の共通点は、技術はもちろんのこと人間性ですね。目の前の児童・生徒と向き合い、理想の大人像になれたらと思います。
- ・自分の失敗と目の前の生徒と・・・教員として向き合うべき様々なものから逃げることなく、頑張ろうと思った。
- ・洋一先生の話をつかしく聞かせてもらいました。いつも謙虚な姿勢とユーモアのあるお話は楽しみにしています。洋一先生の人柄を私も目指していきたいと改めて思いました。洋一先生ありがとうございました。（もちろん、講評の分析もさすがと思えました）
- ・教員の前に人として大切なことをちゃんと持っていたいと思いました。

④ その他の感想等

- ・久々に教職大学院の空気が吸えたことに感謝いたします。現場にどっぷりつかってしまうと、こうした空気はなかなか味わえず、とても新鮮でした。ありがとうございました。
- ・卒業後久々に先生方にお会いできてうれしかったです。
- ・懐かしのキャンパスに久しぶりに訪れ、その変貌ぶりに驚かされました。研修会に参加し、現場の悩みや課題をぶつけることができ、良い機会となりました。ありがとうございました。
- ・修了生だけでなく、先生方とゆっくりと話をすることができたので、とても有意義な時間となりました。最新の教育事案について触れることができました。現場では日々の忙しきでなかなか考える時間がなかったので、先の見通しをもつことができました。
- ・会の運営、たいへんでしたね。お疲れさまでした。
- ・懐かしい先生方、同期と会えることが一番嬉しいことです。こういった会が開催されることに意味があると思います。
- ・フォローアップに参加し、また学ぶことの大切さを実感しました。卒業後にもこのような機会を与えてくださっていることに感謝を申し上げます。
- ・修了生（仲間）のがんばりがよい刺激となり、大学院の先生方からの言葉が今後の指針となりました。
- ・来週以降の実践もがんばろうと思った。
- ・久しぶりに仲間や恩師の先生方と出会えて気分転換になりました。また勉強させていただきます。
- ・学びのある半日でした。また参加したいです。
- ・明日からまた頑張ろう！！と思えた。ありがとうございました。
- ・お世話になった大学の先生方とお話ができたり、同期の仲間と情報交換ができたり、とても有意義な時間でした。このような機会に年に一度参加することで、大学院での学びのありがたみを再確認できると思いました。倉本先生にお会いできたことが一番嬉しかったです。
- ・ありがとうございました！

⑤ 今後フォローアップ研修会で行ってほしいこと等（自由記載）

- ・色々な方と貴重な話ことができました。ありがとうございました。
- ・大学院の先生方と協同で研究を進めていけるような場の設定（理論面での支え、実践・実証のアドバイスなど）。学会発表や学会誌での誌上発表などへつなげられる機会にしていけるとよい（現状：現場にいると足りないところ）。
- ・久しぶりに授業（講義）に参加したいなと思いました。
- ・授業力向上のための活動支援。
- ・学校現場で伝える指導法や教科の技術が学びたい。
- ・失敗から学んだこと、ある出来事から学んだこと、どう乗り越えたかなど成功したことだけでなく、様々な経験談が知りたい。
- ・初めてのフォローアップ研修会の参加だったので、前回までがこういう形式のものだったのかは定かではありませんが、もし別の形式が可能であればテーマごとの交流会を設定してもらえると、よりフォローアップ（？）になるのかもと思いました（[例] 学級経営、教科指導、生徒指導・・・などを選択で事前にアンケートをとり班編成をする] 今回のやり方が決して見直してほしいという訳ではありません。